



赤羽別院報 第23号
所 谷 派 親 宣 寺
行 宗 別 院
真 赤 羽 人 番 浅 野 伶
兼 行 輪
愛知県幡豆郡一色町 大字赤羽字上郷中14
Tel-Fax (0563) 72-2308

寺よ 変われ 仏教「寺」の役割



永六輔氏などの著名人を講師に、十年間四万三千人が参加した尋常浅間学校、温泉を利用した訪問看護、通所介護等の施設を運営し、仏事改革に取り組み僧・高橋師。師の講話から葬儀に関して話された部分を紹介する。

その中で最近行われた8軒の葬儀の例です。お寺で執行した葬儀が7軒、ホールを使ったのはわずか1軒、このうち家族葬が6軒です。今までの葬儀は、対社会的に財力を見せつけるという葬儀が多かった。そうではなく大切な人を見送るという認識のもとで家族葬を行い、後日お別れの会を行うというパターンが定着しつつあります。8軒の内4軒はお寺のほうでご遺体を預かりました。この間に、この方はどういう人生を送ったのか、その人にふさわしい葬儀を遺族と共に考えることができます。また、もしものことがあったらという事前相談が最近多く、末期癌の相談であれば、セカンドオピニオンを聞く病院の紹介をします。

これからの葬儀は、生き方が反映される葬儀、リビングウィル、即ち生きていられる意思、私はこういうふうに見取られたいという文章を残しておくことです。それから、死の周辺の問題解決。臨死のケア、それから死別の悲しみを癒すこと。それが連続して行われます。リビングウィルの認知と実践というところで、どういう死に方をしたいのかということに書き込みます。これを遺族さんへ全員持っています。亡くなられる前または、亡くなられた時に見せて頂きます。どのように看取られたいかということも、希望の祭壇、遺影写真がどこに保管されているのか、生花を贈るであれば、好きな花は何か、最後に自身自身のお別れの言葉を書きまします。これは葬儀で披露され、故人がどういふことを考えていたのかということがよく分かります。ノートの内容は、葬儀を自分で作っていくように出来ています。お墓はどうするかまで書いて整理していくことで自分自身に決着をつける。そうして書き終ったときに皆さん安心すると言います。「これであなたと死んでいく準備ができています。お墓はどうするかまで書いて整理していくことで自分自身に決着をつける。そうして書き終ったときに皆さん安心すると言います。」

旅立ちデザインノート
神宮寺の葬儀、進化する葬儀の特徴は、家族と一緒に作っていくものです。寺側の断断専行を排除し、納得できる葬儀を行う。これは難しいが、

少年の頃受けたトラウマ
このような取り組みを何故し続けているのか。青木新門さんの「納棺夫日記」の中にこのようにあります。「職業に貴賤はない、いくぞと思うても死そのものをタプー視する現実がある限り納棺夫や火葬夫は無惨である」と。納棺夫や火葬夫だけではありませぬ。これには「お坊さん」と入るのです。例えば映画「おくりびと」に、納棺夫に対して「死んだ人間を食い物にして稼いでいるくせに」というセリフがあります。これはすごく強烈な言葉でした。私は中学校一年生のときに初めてお葬式に出ました。そこに同級生が来ていて翌日学校で言いふらしていました。周りの人たちが「お前のところは人が死ぬと儲かるな」と言っていたのです。

寺の敷居は高い？
がんばれお寺
今回の講演会は、今までの仏法を聴聞し、人生の生き方を学んでいくという内容とは少し違うものがあった。それは参加者からもうかがわれ、課題である「寺よ変われ、仏教「寺」の役割」からわかるように、寺の存在に危機感を持っている僧侶、なかでも若い僧侶が今までになく多かつたように思う。前半は、永六輔・黒柳徹子等 著名人との逸話が面白おかしく語られ、師の幅広い人脈を垣間見ることができた。後半は、現代社会の問題点を熟知し、老人問題や地域の活性化等の要求に積極的に対応して組んでおられる様子でプロジェクターを使用し、視覚にうったえた興味あるものとなつた。なかでも葬儀に関して、師の神宮寺での取り組みが詳細に語られ、その的確な行動力には感服するものがあった。

遺族と共に葬儀を考える
葬儀は私たちにとって一期一会の大チャンスです。チャンスというはお布施を頂くチャンスというのではないのです。しっかりと亡くなられた人を送るということが、どれだけ大切かということが、す。しっかりと送らなければ、ご遺族の悲しみというのはい分減ります。時間に追われて必要のないお金を持つて行かれた、というようなことのないお葬式が出来ないものだろうかかと考えていました。

私達は今これを知りかたりに織り込んで、人の老・病・死に関わっていくかなければいけないと思っています。それが仏教を本質に近づけていく。そして地域に住むひと一人が仏様の教えによつて苦が抜かれる。そういうことではないかと考えています。平成22年5月13日 岡崎教区公開講演会講演 (浅野真紀)

満堂の会場
亡き人を縁として、死の現実を事実として受けとめ、自らの生き方を問うていく大切な葬儀を、他者あるいは世間体には振り回されてしまっていないのか。この問題は僧侶共に考えていかなければならない重要な課題であると思う。

旅立ちデザインノート
神宮寺の葬儀、進化する葬儀の特徴は、家族と一緒に作っていくものです。寺側の断断専行を排除し、納得できる葬儀を行う。これは難しいが、

少年の頃受けたトラウマ
このような取り組みを何故し続けているのか。青木新門さんの「納棺夫日記」の中にこのようにあります。「職業に貴賤はない、いくぞと思うても死そのものをタプー視する現実がある限り納棺夫や火葬夫は無惨である」と。納棺夫や火葬夫だけではありませぬ。これには「お坊さん」と入るのです。例えば映画「おくりびと」に、納棺夫に対して「死んだ人間を食い物にして稼いでいるくせに」というセリフがあります。これはすごく強烈な言葉でした。私は中学校一年生のときに初めてお葬式に出ました。そこに同級生が来ていて翌日学校で言いふらしていました。周りの人たちが「お前のところは人が死ぬと儲かるな」と言っていたのです。

寺の敷居は高い？
がんばれお寺
今回の講演会は、今までの仏法を聴聞し、人生の生き方を学んでいくという内容とは少し違うものがあった。それは参加者からもうかがわれ、課題である「寺よ変われ、仏教「寺」の役割」からわかるように、寺の存在に危機感を持っている僧侶、なかでも若い僧侶が今までになく多かつたように思う。前半は、永六輔・黒柳徹子等 著名人との逸話が面白おかしく語られ、師の幅広い人脈を垣間見ることができた。後半は、現代社会の問題点を熟知し、老人問題や地域の活性化等の要求に積極的に対応して組んでおられる様子でプロジェクターを使用し、視覚にうったえた興味あるものとなつた。なかでも葬儀に関して、師の神宮寺での取り組みが詳細に語られ、その的確な行動力には感服するものがあった。

岡崎教区 赤羽別院 報恩講 宗祖親鸞聖人 お待ち受け法要

10月15、17日報恩講 17日にお待ち受け法要・帰敬式

来春、3月から6月にかけて宗門を挙げて真宗本廟・東本願寺において執行される、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要をひかえ、本年の赤羽別院報恩講は「宗祖の御遠忌法要に資するもの」として「お待ち受け法要」を併せて厳修することとなりました。この記念すべき法要には、74年ぶりに御門首を当別院にお迎えすることが叶い、帰敬式の執行並びに結願日中にご出仕を賜われます。

報恩講・お待ち受け法要日程

- 10月15日(金)
午後1時 初速夜
法話 第12組 了願寺住職 藤谷 信雄師
- 10月16日(土)
午前10時 日中
午後1時 大速夜
法話 (午前・午後) 第14組 光輪寺住職 高木 眞正師
正信偈真四句目下 念仏讀五海 和讃 五十六億七千萬
大速夜勤行は、助音講とともに お勧めします。
- 10月17日(日)
結願日中・お待ち受け法要
午前9時 記念植樹
74年ぶりの御門首御参勤の記念として、この事実を石碑に刻んで境内に植樹を行います。

- 午後1時 結願日中・お待ち受け法要御親修
御門首御登高座
正信偈真四句目下 念仏讀五海 和讃 三朝浄土の大師等
回向 願以此功德
午後1時50分 御門首挨拶
午後2時 記念講演

御門首夫妻との懇談会

当別院へ御門首御夫妻がお越しになる事を記念し、本山関係者を交えて懇談会を行います。

日時 10月16日(土) 午後6時
場所 三河湾リゾートリンクス (吉良町・宮崎)

御門首御参勤のこと

昭和11年本山発行の機関誌「真宗」に第23代彰如上人が、先の門首現如上人の13回忌法要に参拝のため、赤羽別院に御出向されたことが記されています。このたび、実に74年ぶり大谷暢願門首御参勤のなか、賑々しく勤められる法要を「御親修」と呼びます。宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌お待ち受け法要を機縁として、崇敬区域の御寺院・御門徒が心を一つにして、この法会のすべてが滞りなく円成することを切に願うものです。

助音講練習会

第1回 9月25日(土) 午後1時
第2回 10月9日(土) 午後1時
いずれも赤羽別院で行います。

帰敬の集い

10月2日(土)午後2時から、今回帰敬式を受けられる方を対象に学習会を開きます。是非「ご出席下さい。」詳細は別途ご案内致します。(三村記)

池田勇諦師真宗講座を開催



本年の真宗講座は、昨年に引き続き名古屋市西區寺前住職・池田勇諦師をお迎えして、2月から3回にわたり開かれました。講題「親鸞講和讃に聞く」も昨年に次ぐもので、遠くは福井や三重など県外を含め、大勢の聴聞者でお御堂は早々に満席となりました。池田師が登場されると堂内は緊張感に包まれ、師をとおして親鸞聖人の教えに熱れる真の心を胸に、又毛帳を手に一言一句聞かれます。

師は「今、いのちがあなたを生きている」と科学の向こうにあるもの」

講題 「今、いのちがあなたを生きている」

ますます山門に三尊像を安置

昨年の山門修復施工により、その姿がひととき美しくなったのを機に、本山御影堂門と同様に、当別院山門にも仏さまを安置したいという声があがった。釈迦如来像は、この話を耳にした地元の篤志家により寄贈されるに到った。この像に、脇士として、多聞天和弥勒菩薩像を添えた三尊像が揃った六月五日の殉教法要の折、入仏法要をお勧めし、法要をお勧めし、安置された。この安置は、一色町出身の僧侶・心海師の作であり、多聞天像の裏に「昭和十三年に建立さ

き送すまいと真剣に聞き入ってみえました。師は、和讃をとおして、親鸞聖人の教え、思いに深くせまられた。それは豊かな感性がもたらす情熱的で力強い内容であり、師の主眼を混えてのお話は、今の時代が本当に必要としているものであり「仏法を聞いたら、心が」といふお言葉は、今後の仏法聴聞の指針となるものであります。

聴聞を予えて家路につく人たちの多くは、昨年の当講座で池田師にお話しいただいた「報恩講和讃」五十六億七千萬(次第六首)に聞くをまことめ、教化センター伝道部が4月に発行した講義録を大事そうに手にしておられました。(本多記)



中央・釈迦如来像

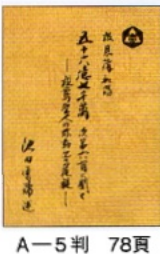


入仏法要

書籍 発行

このたび、赤羽別院では新刊書籍2冊を発行しました。

- 報恩講和讃 五十六億七千萬 次第六首に聞く
発行 池田 勇諦師
タテ・伝道部
頒価 五〇〇円 送料別途
- 口述 池田 勇諦師
発行 赤羽地域教化セン
タテ・伝道部
頒価 五〇〇円 送料別途



A-5判 78頁



A-4判 16頁

本書は、明治28年真宗本廟両堂の再建にあたり、総数28万余枚の瓦を一手に引受けた三河門徒のはたらき等を、現在最古級の達磨寮を持つ職人さんの話を交えて、多数の写真とともに収録した、真宗の歴史に残る伝聞書です。御遠忌団参の記念の品として、是非ご利用下さい。

ご注文は、全てFAX又は書類で赤羽別院まで・お問合せは、電話で別院まで
TEL・FAX共
〇五六三二七二二三〇八

お寺の掲示板

だれにても 負けることが できる人は 天下無敵
第14組 安事寺

子供助音講に 参加しませんか?

日時 8月16日(月)20日(金) 午後4時から5時まで
場所 赤羽別院 お御堂
対象者 小学生(保護者同伴可)
毎日30分程度、正信偈のおけいこをした後、ゲームなどで楽しみます。初心者歓迎!お気軽にご参加下さい。

絵画・俳句募集!!

一、絵画(3才~小学生) 募集期限 7月31日まで
二、俳句(中学生以上) 募集期間 7月1日~8月31日
※ 絵画俳句とも詳しい応募要領は赤羽別院内の掲示を、宛になるか 電話(〇五六三二七二二三〇八) お問い合わせ下さい。多数の方からの応募をお待ち致しております。

本物発見! 伝える技・繋がる命 三河仏壇展示会

第16回 三河仏壇展示会
ご来場者に記念品進呈
入場無料
日時 平成22年10月2日(土) ~10月3日(日)
午前9時30分~午後5時
会場 西尾勤労会館・体育館
西尾市平坂町山崎9番地1
主催 三河仏壇振興協同組合
TEL 0564-24-7766



お待ち受け法要勤修

第8組 教化事業

だれもが50年に一度しか巡り合うことのできない宗祖親鸞聖人のご遺徳法要を来年にひかえ、岡崎教区第8組では、本山から御健役・宣心院殿をお迎えし、組を挙げての「宗祖親鸞聖人七五〇回御遠慮・第8組お待ち受け法要」が勤修された。

「お待ち受け法要」とは、真宗本廟で厳修される「御遠慮法要」の前に、全国各の別院・教区や各寺院等で勤められる法要のことと、池田勇師は「宗祖親鸞聖人が、私達に、共に願生浄土の大道を歩もうじやないかと、お待ち受けくださったこと」を話されてみえます。

去る4月16日、第8組では、教化事業の一環として、西浅井町・宿禰寺においてお待ち受け法要を勤修した。



まの釈を表わします。宣心院殿は「法名をいだけたことは、お浄土への切符を手にしたというのではなく、お釈迦さまの仏弟子となられた証しであり、このことを己の人生の上に明らかにしておく名刺です」と論じられた。

午後には、宣心院殿のご出仕をいただいて、壮麗な雅楽が奏でられるなかで、お待ち受け勤行が勤修された。

最後に、「世の中は、ご縁でなりたっています。現実を受けとめながら全てを受け入れる。ご縁を大切にすると人生は歩まれますよ」とのお言葉をいだけたとき、盛装に幕を閉じた。

(石川記)

子供花まつり

第14組児童教化部門

花冷えのする過3月24日、14組児童教化部門による「花まつり」が棚尾・安専寺にて開かれた。14組では児童教化を組織的・継続的に実施していくため、9年前より組の教化組織の中にこの部門を位置づけた。主に、坊守を中心とした構成であるが、行事の実施に当たっては門徒の方の力強い協力を得ている。

「花まつり」当日はあいにくの雨となり、手作りのかわい白い象を引き、近所を練り歩く催しはできなかったが、小さい子ども達は本堂の屋根の下で象さんになり、楽しそうな笑顔をみせていた。

「正信偈のお勤めでは、常にはない子ども達の真剣な顔がみられ、本堂一杯にひびきわたった大きな声は行事の大



白い象に乗りっこにこ

切さを教えてくれた。お楽しみは、坊守手作りのパネルシアター「おしゃかさま」の上演・安専寺若院によるマジックなど盛り沢山あり、

本山講師に学ぶ

第3回10組住職研修会

今春3月17日、10組の住職研修会が、西尾市・願正寺において行われました。講師に本山定衆(僧侶に儀式作法を教える先生)の瀬尾顕證師をお迎えして、午前中を組内住職の研修とし、午後には組外からの参加者を受けて「臨終から通夜、葬儀、中陰にいたるまで」をテーマとした話がなされました。

組内住職研修では、三海、五海などの念仏、調声、葬儀の時に称える路念仏の称え方まで、丁寧に指導をいただきました。

お昼には、会所の坊守さんが調理された精進料理を、講師の先生と共に箸をつけ、和



やかな時を過ごした後、午後からの研修会に移りました。先生から「近年、葬儀式の

多くはホールや会館で勤められておりますが、「葬」という文字のつくりは、草の意味を表わしている「艹」と「井」の間に亡骸が納められた棺が置かれていた状態を表わしております。ですから、棺の上も下も草ということの意味、葬儀式は「野」において勤められる、即ち屋外で行われる儀式なのです」という言葉が印象的でした。

ホールでの法要は、雨風をしのぎ、暑い寒いに関係なく勤められますが、私たちの記憶に残る仏事として、勤められているものと自問する、とても意義深い研修会となりました。

(石川祐記)

門徒の声

お母さん

子ども達の元気で楽しく遊ぶ姿がみられた。今回の参加者は、子ども60名、お母さん等10名、スタッフ16名ととても賑やかであり、これも継続の力かと思っている。その他、夏休みには「夏のつどい」も実施している。今後は、「子ども報恩講」にも取り組み児童教化に力を注ぎたい。また、現在坊守による、大型かるたも作製しており、一人でも多くの子どもが参加を願ひ、より充実した活動を目指している。

(浅野眞記)

私が5才の時、12才から1才までの7人の子供と祖母・両親の10人家族が寄り添って暮らしていたが、35才の父親が突然脳溢血で倒れ、5日後に他界しました。その時母は31才でした。腕白盛りの食べ盛りが7人、母の着物仕立て質と祖母のお手伝い質で家族の生活を支えなくてはならず、毎日が大変だったと思います。毎日その子供達は父親がいながら養も何もなつたらんといわれんように、自分の事

は自分でしっかりやり、何事も陰日向なく一生懸命に頑張るようにと教え込まれました。病弱で淋しがりやで泣き虫だったお母さん。どれ程私がまま言ってヤンチャして、夕夕をこねて泣かせたことが、それでも何を許してくれただ優しいお母さん、お母さん。毎夜守り唄がわりにお母さんの扁扁無量寿如来を耳に眠りについていた私たちに、しっかりやっていると、体に気をつけているか、皆んなに好かれていたか、といつも気がついていたお母さん。

夫の五十回忌を勤めた翌月にお浄土に遷つていかれたお母さん。あなたのおかげで私も正信偈に深いご縁をいただきました。お母さん、私の「正信偈」少しは聞きやすくなつたでしょうか？今、ふり返つてみると、私たち7人に教えてくれたこと、私たちが教えたこと、私たちが教えたこと、何物にも代えがたい尊いことだったと思わずにはいられません。お母さん、本当にありがとうございます。合掌

杉山準

ゴボちゃん



御坊俳壇

今号から、御坊俳壇欄を新設し、皆さま方からお寄せいただいた句を、10句程度掲載してまいります。名句・迷句大歓迎！是非、赤羽別院あてお寄せ下さい。念仏に無風のころや春ふかむ 鈴木いほ 藤房の揺れ白雲の動き出す 三十三観世音経飛花落花 子雀を呼ぶ声忙し鬼瓦 椽門は郷土の宝風薫る 風光る赤羽御坊の風下り

高橋 冬竹 高須 南帆 蓮沼たけし 谷 水甫 信川 芳枝 水頭うた子

第14組 寺園寺門徒

PÂTISSERIE RENCONTRE
Okayasu
油であげない
焼ドーナツ

お菓子の店
ラコンチュル オカヤス

TEL: 445-0844
愛知県西尾市末広町2番地
TEL/FAX: 0563-56-7781
営業時間 9:30~20:00
定休日 毎週火曜日
http://www.cake-okayasu.com/

55th Anniversary **knt!** 笑顔がいっぱい

近畿日本ツーリスト株式会社 岡崎支店
岡崎市明大寺町川端20-2
TEL: 0564-23-3121
FAX: 0564-23-5838
E-mail: okazaki@or.knt.co.jp

三河湾国定公園内
アーバンサイドの快樂園

TEL: 444-0513
愛知県稲垣郡吉良町大字宮崎字中道下15
TEL: 0563-32-3711
FAX: 0563-32-3809
http://www.linx-xspa.co.jp/

人間模様 その5

報恩講など、お寺の大切な法要に欠くことができない、お内陣の荘厳となる仏花を立てられる。西尾市中原町在住 仏花師・松田由彦様
現在では数少ない存在である仏花師として活躍のようすと、後進の育成について語っていただきました。

仏花に携わるようになられたきっかけは？
松田 15年前程前に、10組の取り組みでお内陣の仏花の講習があり、それに参加したことです。その時の講師が岡崎駒立仏花研究会の柴田久夫氏で、半年程講習を受けた後に、同様に誘っていただき参加するようになりまし。

現在ではどのような活動をされているのですか？
松田 お内陣の花立ての講習会を、自宅月に1回程度行っています。現在、参加者は岡崎や刈谷など市外にお住まいの方を含めて15名程です。自由が出入りできますので、興味がある方は是非参加していただければと思っています。

花立ての活動をされていると聞きまして、お気づきになられたことなどは？
松田 数年前までは後継者不足を心配していましたが、現在では南中根町の隨嚴寺さんの門徒で、とても熱心な方が3名お見えになるので安心してるところです。

お寺で花立ての他にも活動されていることがありますが？
松田 お内陣の花立ての講習会を、自宅月に1回程度行っています。現在、参加者は岡崎や刈谷など市外にお住まいの方を含めて15名程です。自由が出入りできますので、興味がある方は是非参加していただければと思っています。

各組のお待ち受け行事

- 来賓、宗祖親屬聖人七百五十回御遠忌法要を迎えるにあたり、赤羽別院崇敬区各組においては、共に聖人との出会いを求め、また、仏法に対するそれぞれの想いをこめて、御遠忌お待ち受け行事の開催が予定されていますので紹介致します。
- ◆第9組お待ち受け法要
11月12日(金)午後2時
了淳寺・吉良町二川
法話 豊川市・正願寺住職 助音講の練習
日時 未定
 - ◆第10組お待ち受け法要
10月4日(月)午後2時
願正寺・西尾市熊味町
音楽法話 弾き語り
鈴木 君代師
 - ◆第11組お待ち受け法要
10月11日(月)午後2時
西尾教会・西尾市末広町
法話 池田 勇師師
桑名市・西尾寺前住職
 - ◆第12組お待ち受け法要
10月17日(火)午後1時
熊味町・願正寺
9月14日(火)午後1時
平坂町・無量壽寺
 - ◆第13組お待ち受け法要
7月10日(土)午後1時
養林寺・一色町味浜
法話 小川 一乘師
 - ◆第14組お待ち受け法要
10月19日(火)午後1時
赤羽別院 一色町赤羽



10月の赤羽別院のお待ち受け法要は、5ヶ組(第8組は実施済・本号3頁に掲載)で法要が計画されており、是非、組を超えてお参りや法話の聴聞にお出かけ下さいますようご案内致します。

法話 青木 醫師 蓮成寺住職
法話を聴聞後、安城市歴史博物館において「親鸞展」を見学



仏花師・松田由彦さん

本日は大変有難うございました。松田さんのような方がいらつしやることは、お寺にとっても非常に心強いことであり、後進のご指導までお考えくださるのには大変有難く思います。今回、お話を聞かせていただき、様々な方々に支えられているお寺の存在を、あらためて認識するご縁となりました。(佐々木記)

法要 念法 教記 念法 要

毎年6月5日には、石川台嶺師に縁りの安城・西尾両市で護法有志の殉教記念法要が営まれている。
この日の午前、台嶺師のお寺・蓮泉寺隣の護法有志の墓前にて、御難役・信教院殿御参修のもと勳行が行われた。次いで、師が20歳の若さで斬首された、西尾・葵町の西尾城獄舎跡の記念碑前でも同様の勳行があり、大勢の参拝者が護法有志を偲んだ。
午後には、場を赤羽別院に移して、崇敬区寺院の住職が、出仕し、御難役の御参修を得て法要をお勤めした。勳行の後、信教院殿は「この事件を学び、その現代的意味を問いつつ、続けていかなければならない」と話された。
この後、名古屋女子大学教授・遠山佳治氏から講話があった。事件の背景となる江戸時代から維新後の三河門徒の様子、特に三河三ヶ寺と善戸会所そして赤羽別院の関係など、資料を示して話され、歴史家として客観的な視点で、大浜騒動が起るに至る背景をお示し下さった。
お念仏のお御法は、このように苦難の時代を乗り越えて、多くの先達が命を賭して伝え改め下さったものであることを改めて心に刻みつける法要となった。(古部記)



輪番よりお念珠

人生の門出は 赤羽別院から

殉教法要前のお昼すぎ、結婚式直前の外山真久・杉浦洋子さんのカップルが、赤羽別院に参拝。御本尊の前で焼香の後、輪番からお祝いの念珠を授与。百人余の法要参詣者から祝福の拍手喝采！

トピックス

列座見習いに 大河内哲師就任

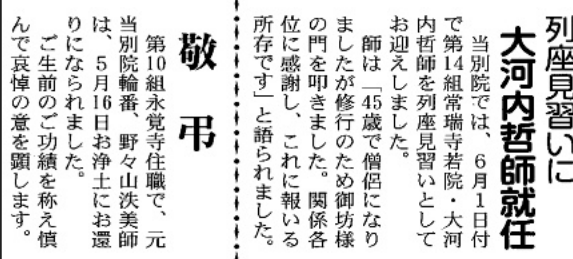
当別院では、6月1日付で第14組常瑞寺若院・大河内哲師を列座見習いとしてお迎えしました。
師は「45歳で僧侶になりましたが修行のため御坊様の門を叩きました。関係各位に感謝し、これに報いる所存です」と語られました。

敬弔

第10組永覚寺住職で、元当別院輪番 野々山洪美師は、5月16日お浄土にお還りになりました。ご生前のご功績を称え懐んで哀悼の意を顯します。

◆仏事 Q & A◆

◆お内陣にお水をお備えしたいのですが、どのようにしたらよいですか？
特別なものを用意する必要はありません。平常の荘厳と同様であればよいです。
◆お水をお備えする仏具が、お水を清浄に保つために櫛を挿します。写真①
◆お内陣で、櫛が入らない場合は青い葉のものを入れます。前卓上の花瓶は色花を挿しますが、上卓上の華瓶には色花を入れません。写真②は間違った例です。(小栗記)



写真②誤った荘厳 写真①正しい荘厳

山門修復御懇志(敬称略)

- 2月21日〜6月10日
- 養林寺 安林寺門徒一同
 - 高須 邦治
 - 青山 五子 安専寺
 - 大沢 恭子 慶昌寺四人衆
 - 石原 豊子 加藤あさみ
 - 加藤 文子 久保田実一
 - 服部 敏治 三矢 平市
 - 吉崎 節子 吉崎みつ子
- 以上の方々と、併せて58万円の御懇志をお寄せいただきました。
- 赤羽御坊新聞御懇志(敬称略)
神谷 芳雄 敬西寺同行中
安専寺 正向寺
貴重なご懇志をありがとうございました

編集室

赤羽地域教化センターが発足して3年、新体制で季刊新聞「赤羽御坊」を8回発行してまいりました。
広報部では、赤羽別院や教化センターが取り組む各種事業のみならず、崇敬区内寺院をはじめ、御門徒さんなどにも目を向け積極的に取材をし、これらの殆んどをホームページにアップし、このなかから耳よりな出来ごと等を新聞に掲載してきました。
今後、これをベースとして、別院や教団各部署との連携を密にし、皆さま方からお聞かせいただくご意見を糧としてより充実した新聞の編集に努めて参る所存です。ご協力をお願い申し上げます。

赤羽地域教化センターウェブ
http://www.katch.ne.jp/~akabane_betuin/
仏事で困ったら…
携帯からのアクセスはこちら
1. 仏事Q&A
2. 行事案内
3. 赤羽御坊日誌